

音楽いっばいの卒業式

広安西小で 94 人巣立つ

広安西小（森永好誠校長）の 19 年度卒業式が、3 月 21 日行われ、94 人が巣立ちました。

音楽部員が演奏する「ラデツキー行進曲」に乗って卒業生が入場、桜草で美しく飾られた壇上で、森永校長から一人一人に卒業証書が手渡されました。

卒業生たちは、次々と立ち上がっては、楽しかった思い出などを元気よく語り、先生や在校生にお礼を述べました。

式では、卒業に付き物の「仰げば尊し」のほか、「この星に生まれて」「旅立ちの日に」「きみに伝えたい」などの曲が演奏され、児童たちは思い切り歌いました。保護者代表の森奈美さんが感無量の面持ちで謝辞を述べ、卒業生たちは「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」の曲に送られ、退場しました。



お礼の言葉を述べる卒業生たち

春の訪れとともに

木山初市

今年も春を呼ぶ益城の風物詩「木山初市」が、うらかな春の日差しが輝く 3 月 1、2 日、木山横町通りで開催され、両日で約 1 万人の人出で通りが埋め尽くされました。

歩行者天国とされた通りでは、季節の植木や鉢花のほか、市あめやわたがし、たこ焼きなどの露天商が所狭しと立ち並び、訪れた見物客や買い物客らが足を止めていました。中でも名物「市だご」は今年も大盛況で、売り場では長蛇の列ができ、注文に作るのが追いつかないほどの人気ぶりでした。

また、特設ステージでは、猿回しやエイサー演舞、カラオケ大会や歌謡ショーなどが催され、観客の目を



2 日間で約 1 万人の人出ににぎわいました

楽しませていました。

秋津川の観察会開く

ましき宝箱のグループ

「ましき宝箱」（森永博之代表）主催の秋津川観察会が 3 月 20 日、広崎の秋津川と妙見川の合流地点一帯で行われました。うらかな陽気の中で、小学生や保護者ら 20 人が参加、自然観察指導員の篠原晴美さんの指導で、川の水質を検査したり、水生動物や野鳥を観察したりしました。

水質検査は、2 年前と前年に続いて、同じ地点の水を採取、BOD（生物化学的酸素要求量）とペーハーを調べところ、汚染度はほぼ変わらず、水質は「快適な水環境」、底生動物は「多少不快な水環境」という判定でした。

「ましき宝箱」は、山に登ったり、河川を観察したり、郷土料理の認識を深めたりして、ふるさとの良さを守り続けるグループで、一般の参加を求めています。



水生生物を観察する子どもたち

認知症の講演会開く

モデル事業推進のため町内 6 カ所で

県のモデル地域指定を受け、認知症の人たちが安心して暮らせる町づくりを目指す益城町は、2 月から 3 月にかけて、町内 6 カ所で「認知症講演会」を開きました。

スタートは 2 月 21 日広崎 3 町内公民館で、20 人が参加して開かれ、益城病院ソーシャルワーカーの福島郁雄さんが「認知症高齢者の実態」「認知症の鑑別」

「認知症の早期診断と早期治療」「認知症の予防」「認知症高齢者との付き合い方」などについて話し、ケア担当の女性スタッフ二人が、寸劇を演じながら参加者に認識と理解を求めました。

シリーズ講演会は、3 月 11 日の津森分館で終わりましたが、一般町民の認知症に対する理解がずいぶん深まったようです。



寸劇も交えての講演会